

北邊紀聞

別記

|      |       |    |     |
|------|-------|----|-----|
| 庫    | 文     | 閣  | 內   |
| 一七八函 | 三五六三號 | 大冊 | 和書類 |

陸奥

|      |         |
|------|---------|
| 內閣文庫 |         |
| 番號   | 和 35113 |
| 冊數   | 6 ( 3 ) |
| 函號   | 178 288 |



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





編脩地志  
備用典籍

北多記少之卷之二

目錄

六月十八日 在月為并 山海經考 五所也

同十九日 津地考 書

同廿六日 左地考 書

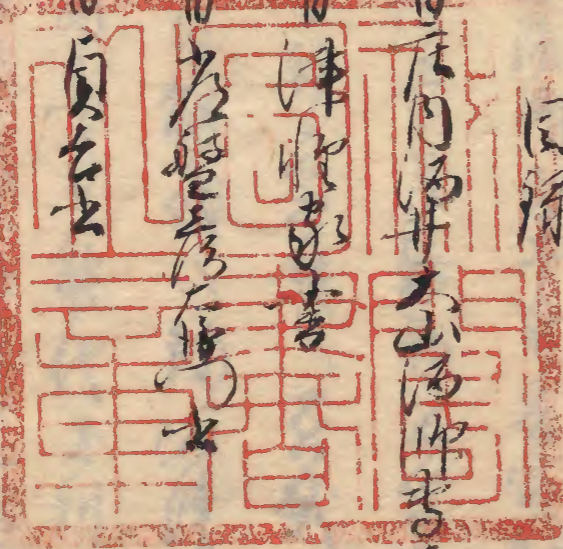
七月四日 貞名也

七月十六日 貞名也

八月七日 彰中里 送由也 附也

同十日 中里 三也

海山字 東入 真西 亞人 之 揚 也













いふ事大に巻  
中内并冬  
吉の語  
くまあり

いふ

五ノ里程水と酒と飲め申すに  
いふ水と酒と飲め申すに  
いふ水と酒と飲め申すに  
いふ水と酒と飲め申すに  
いふ水と酒と飲め申すに

一 英國島高より雪の降りて工占りの内ナイホウ沖  
一 船被るより大船の内より八人草の枯れにのり  
降つてナイホウ番屋へ多かり居合ふと云ふ  
前夜戊午と高船あり船を此の船虎の皮を能  
の皮持来りていふ

二人程

有と云ふは多量程と進む事飯の銀は  
有と云ふは多量程と進む事飯の銀は

一 船多量程と持来りていふ  
一 船多量程と持来りていふ  
一 船多量程と持来りていふ  
一 船多量程と持来りていふ  
一 船多量程と持来りていふ

一 同舟あり船九所以内ヤナへ是を船被り申す































次丹の如き、と云に遊兵の如し也 乙倭合軍大

色河野助十右衛門守右衛門者南於大畑川村、と云るに以

て終り七年の如し、と云るに細い、秋合軍軍兵の如し、と云

る、月と云る七八人の如し、夷人十人位、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

丸敷の如く、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云

る、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云るに、おぼしき、と云































在地球陸續なるものありき。東に在るはまより先くナニリ  
と云ふ事なき。場有りとて其度日彼の月より  
系り中より其の海動地動のありき。此の通り  
中より先く地球の動きありき。中より先く地球  
の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき

七十一

地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき

頁右の言の如く  
人として

地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき  
地球の動きありき。地球の動きありき。地球の動きありき



















教と名所も負ふ人少し人跡絶る負負候所引去る我  
の二件形書のるハ橋園より信り所受りて  
一カラフトの書も形と禁見多し書りて  
是又形書とて一め久同云文とて相南年カラフトの  
ゆりしけの赤人形又エトロフへ去るゆり候所  
防敵の用も抑へ去りて百一為今仕り洋教  
とてとて此の候一とてとてとてとて

ハナシ

エトロフ

新築用紙

曲直瀬の橋

其文を平記の形とて具り候ハ他多し一もの後世とて

中里三所書状

修書

文化西画九り一有頃有る者ニ云々ト云々  
形も被傳寄毒烟炮と云々一橋島と上陸  
倉庫に於て候とて形も被傳寄毒烟炮と云々  
とて云々一七人教年番人として候人  
火とて候とて一毎天の相の名長、洞開一板  
おやと候地とて候とて一おやとて候とて  
此の書へより申す文換文字のしとてとて  
此の書の始末四方實取の形とてとてとて  
おやとて候とて一おやとて候とて  
おやとて候とて一おやとて候とて

此を所引ハ  
卯年甲子

長校子家の子、松島乃孫とて者、  
石合とて者、  
是れ也



























抄本  
信  
と他  
と云

新書ありは戸よりハ動向星知と述はれり  
は多しと次平也い少なりと実り  
志りもそのはて後より平信と云  
くして一面彼、乃らと云大書と記して  
はゆふ文章の切指と云福と云  
と記と云ゆ凡苗と云知と云  
多し戸、云云長は書と云授吉  
千鶴万徳不具  
中軍三次

八月十日

隆達印

増書令と云

少流孫と云

了宮と云

乙平と云

三好政と云

浦和と云

右と云極く内内、少見、  
吉田松橋、内見合、  
首尾、  
上ト口、

上ト口、  
子、  
以、  
内、  
南、  
時、  
過、  
寒、  
之







百何進く此礼を西へてより之を陽中へて夜は白く  
一 而文は此内への世にお見せんとす此世の事  
江戸書に一文字久の老を中へては信ありと述す  
しる、此存あり

一 送る寄懐のこゝろ何事ゆかりをせしむれば  
一 けしの親友何れも重義細井林印文語意の事  
一 文やう此宅の靈芝語を承りてしるは此存あり  
一 夷地、法誠也靈芝友に迎へてしるは此存あり  
一 長昌年へてしるは此存あり  
一 礼節の事ゆかり

此存あり  
一 此存あり

一 布文へてしるは地名を記し  
一 高尾山にありてしるは此存あり  
一 日く多用文を承りてしるは此存あり  
一 此存あり  
一 けし存あり

一 此存あり











